

二 父、母、本籍

父正秀は非常に法律に明るい人で、中根式の「便利訴訟用紙」を考案していました。これは裁判所に出す書類について、必要な部分だけ書きこめばよいというまことに便利なもので、百種以上も考案して、広く各方面で使われていました。妹と二人でランプの下でその用紙に「著作権所有」の判を押していたことをよくおぼえています。

また武徳会や赤十字方面など公のために非常に尽力し、勲章までいろいろもらい、宮地獄神社などにも尽力していました。

昔の人ですから精神がしつかりしており、あるとき、お酒を飲んでふらふらしながら散歩に行くといつて出るので私がついて行くと、「正世（私の本名）、今から少しもふらつかないで歩いてみせる！」といつて、きちんとしてどんだん歩いたのですが、今でもときどきそのときの姿を思い浮かべて非常に感心しています。長崎市の市会議員になるとよいといわれ市議会の見学もしていましたが、惜しいかな六十歳で亡くなり、残念でなりません。

母は良妻賢母の典型的な人でした。非常に情け深く「テフ」（古い仮名遣いでチヨウと読みます）という名前でした。博愛仁慈の権化といったような人でした。物もらいなどが来ると、あとを追っかけて行っ